

# 月刊しばうら

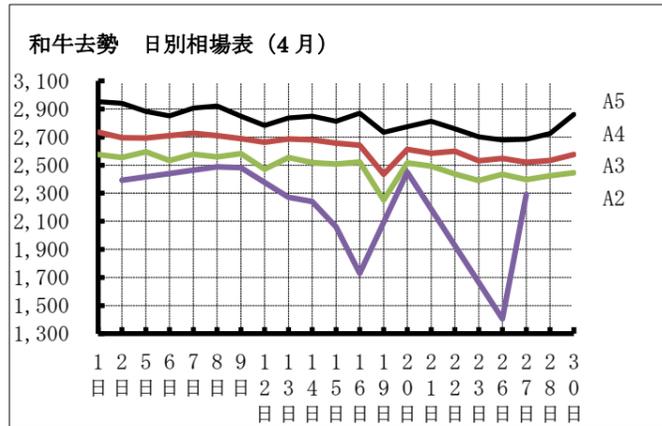
2021年5月号

## 牛肉営業部

### <4月の相場動向>

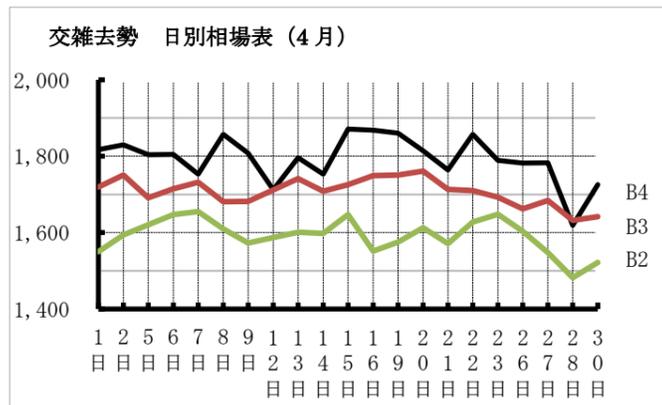
多くの企業が新年度を迎え、またゴールデンウィーク需要への期待感から月初めは年末並みの高値となっていたが、4/5に大阪・兵庫・宮城で適用された新型コロナウイルス感染症対策のまん延防止等重点措置が、4/12より東京・京都・沖縄にも適用となったことで、月後半には和牛相場はやや落ち着いたものの、国の冷凍の保管事業や輸出需要により、総じて安定した価格の展開が続いた。

また交雑牛についても小売りや量販店向けのゴールデンウィーク手当からか高値安定の相場展開となった。



### 和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,831円	+778円 137.9%	+20円 100.7%
A4	2,645円	+942円 155.3%	+43円 101.7%
A3	2,505円	+987円 165.0%	+90円 103.7%
A2	2,223円	+962円 176.3%	+22円 101.0%



### 交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,809円	+442円 130.4%	+75円 104.3%
B3	1,714円	+504円 141.7%	+102円 106.3%
B2	1,591円	+539円 151.2%	+114円 107.7%

### 乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	上場なし	-	-
B2	1,035円	+323円 145.4%	+72円 107.5%

### <5月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、3月の輸入量は前年同月比2.8%減の4万6,210tで、うちチルドは8.3%減の2万2,851t、フローズンは3.2%増の2万3,359tとなった。チルドは2月末通関予定の貨物が3月にずれ込んだ影響が一部にはあるとみられ、前月から4,957t増加している。フローズンは米国产の増加により前月より3,921t増加した。

農畜産業振興機構によると5月の牛肉輸入数量は、前年比6.9%減の4万6,600tで引き続きの減少と予測している。内訳はチルドがほぼ前年並みの2万600t、フローズンは11.7%減の2万6,000tで引き続き入船遅れの影響や、豪州および米国の現地価格の高騰により前年同月を下回る予測をしている。

輸入牛肉通関量		3月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,488	12,146	69.9%
	米国	11,702	10,695	109.4%
	その他	2,661	2,084	127.7%
	合計	22,851	24,925	91.7%
フローズン	豪州	9,474	12,091	87.9%
	米国	8,236	5,560	148.1%
	その他	5,649	4,973	113.6%
	合計	23,359	22,624	103.2%

出典：食肉速報 単位：t

### <5月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による5月の出荷予測頭数は、全体で前年並み(100.3%)の7万9,000頭で、品種別にみると和牛は1.1%増の3万5,600頭、交雑種は2.1%増の1万7,600頭、乳用種は2.4%減の2万4,400頭と予測している。

東京食肉市場の5月のと畜頭数は6,700頭を予定しています。

### <5月の牛枝肉相場見通し>

東京・大阪・京都・兵庫でゴールデンウィーク直前に緊急事態宣言が再発令され、宮城、沖縄、埼玉、千葉、神奈川、愛知、愛媛でまん延防止等重点措置が適用となったことから、外食需要の減少によりゴールデンウィーク後の補充の見込みが薄いとみられる。一方で海外輸出が堅調であり、また国の冷凍保管事業の効果が継続することから、和牛枝肉相場は5等級の相場は弱含みとなるが3・4等級は堅調に推移するものと思われる。

巣ごもり需要により小売りや量販店での需要が見込まれる交雑・乳牛については、輸入牛肉の入荷の減少見込みもあるため、堅調に推移すると考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800~2,900	B4	1,750~1,800
A4	2,550~2,650	B3	1,650~1,700
A3	2,450~2,550	B2	1,550~1,600
A2	2,300~2,400		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

## 豚肉営業部

3月の全国と畜頭数は、前年同月比5.9%増の151万8,545頭。また、3月の豚肉通関数量は6万9,017t(前年同月比2%増)と前年同月を上回り、前月比でも7.4%の増加。内訳はチルドが4万1,139t(同16%増)と増加した一方、フローズンは2万7,878t(同13.4%減)と大きく減少した。

2020-2021年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
3	79,535	67,628	25,062	185,075	77,478	67,595
4	80,239	101,568	23,124	200,821	82,085	85,822
5	71,318	79,864	20,858	214,884	73,523	65,801
6	72,535	79,522	23,208	211,865	70,031	82,541
7	73,967	75,011	21,378	204,074	75,708	82,802
8	68,179	68,431	20,340	200,507	69,117	71,998
9	71,876	65,416	19,685	193,386	72,409	72,537
10	80,156	72,415	19,333	184,855	80,388	80,946
11	79,406	70,497	19,411	175,578	79,178	79,774
12	82,555	71,474	20,414	167,897	81,364	79,155
1	78,800	66,620	22,433	160,131	76,657	74,386
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
比	105.6%	102.0%	96.2%	85.3%	106.6%	107.2%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

3月豚肉通関実績					
	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	19,954	114.7%	デンマーク	3,820	93.7%
カナダ	19,826	113.4%	スペイン	6,011	74.9%
メキシコ	1,358	228.2%	メキシコ	5,404	87.1%
			アメリカ	3,139	77.1%
			カナダ	2,760	113.3%
合計	41,139	116.0%		27,878	86.6%

単位：t

### <4月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	65,500	494	466	638
2日	65,500	511	492	887
5日	66,100	494	470	749
6日	66,500	510	480	849
7日	62,500	506	473	686
8日	66,900	506	468	658
9日	62,700	509	480	816
平均	65,100/日			755/日

全国と畜頭数は6万頭台半ばでの推移となった。出荷頭数がそれほど伸びなかった影響により、相場は490円から500円を超える強もちあいの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	62,600	491	450	715
13日	67,000	500	462	901
14日	67,300	512	457	664
15日	66,800	489	442	748
16日	62,000	453	433	965
19日	64,600	465	436	805
20日	69,200	484	462	940
平均	65,643/日			820/日

連休を前にして出荷を前倒しにするケースもあり、と畜頭数は増加傾向となった。例年であれば大型連休に向けての手当も出てくる時期となり、相場は上昇傾向となるが、全体的な引き合いは弱く軟調な展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	64,900	485	448	660
22日	68,000	502	474	669
23日	66,700	480	465	938
26日	68,400	496	461	756
27日	69,300	497	456	919
28日	73,100	517	467	848
30日	68,800	483	442	992
平均	68,457/日			826/日

東京都に3回目となる緊急事態宣言が4月25日に発令された。内食需要により量販店などでの需要は堅調に推移し、特にスソ物やバラを中心に引き合いは強い状況となったが、相場は500円絡みの展開で連休前の手当による高騰はみられなかった。

### <5月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による5月の肉豚出荷予測では132万7,000頭(前年比103%)と予測している。当市場の5月集荷予定頭数は1万5,000頭、1日あたりでは約833頭を見込んでいる。

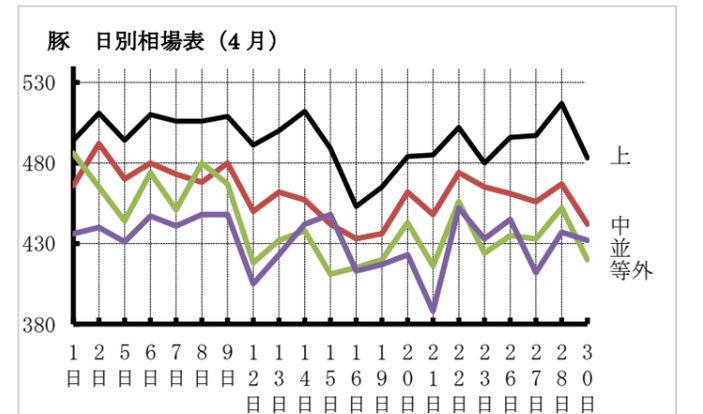
農畜産業振興機構によると5月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万2,700t(同91.0%)、内訳は冷蔵輸入量が3万3,100t(同98.9%)、冷凍輸入量は3万9,600t(同85.4%)と予測している。

冷蔵品輸入量は、飼料価格の高騰やアジア諸国を中心とした買い付けによる現地価格高騰等の影響があったものの、前年の輸入量が北米の現地工場の稼働停止の影響により少なかったことから、前年同月をわずかに下回ると予測する。なお、3ヵ月平均も前年同期をわずかに下回ると予測する。

冷凍輸入量も冷蔵品と同様の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外食需要の減少や、前年の輸入量が多かったこと等から、かなり大きく前年同月を下回ると予測する。また3ヵ月平均も前年同期を大幅に下回ると予測する。

5月末まで緊急事態宣言の延長が決定し、今後も家庭内消費中心の動向が継続される見込みだが、昨年のような巣ごもり需要による豚肉相場高騰の期待は薄く、今年は落ち着いた相場展開となりそうだ。今後、気温も上昇していく中で徐々に出荷頭数も減少傾向となるが、5月はある程度順調な出荷が見込めることが予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は500円前後、中物平均価格470円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127